

令和5年度第11回沖縄県環境影響評価審査会 議事概要

【日時】令和6年3月5日（火）10:00～11:30

【場所】八汐荘 4階中会議室（住所：那覇市松尾1-6-1）

【出席者】

・沖縄県環境影響評価審査会委員

（会場）日高会長、立原委員

（オンライン）棚原副会長、岡本委員、廣瀬委員、尾方委員、傳田委員、佐々木委員、
安里委員、須田委員、山川委員

・事務局（沖縄県環境政策課）小川副参事、宮平班長、上江洲主任技師、
竹内主任技師、崎枝主任技師、與那原主任

【議題】

・那覇港浦添ふ頭地区交流・賑わい空間公有水面埋立事業に係る環境影響評価方法書について（答申案審議）

事務局から答申案について説明後、質疑応答を行った。

【質疑・応答】

○委員

審査概要3頁の環境影響評価項目の選定のところだが、底質について護岸の工事中は底質が評価項目に選定されているが、埋立ての工事中は選定されていないがよいのか。

●事務局

工事計画のところでご説明したところだが、今回の工事手法として、護岸の形成を行った後に埋立土砂を投入するため、埋立工事の段階では外（海域）に漏れていかないのかと考えて事業者は選択していないものと考えている。

○委員

景観の部分で、「眺望性の観点のみでなく、位置、眺望特性、利用状況等」という文言があるが、利用状況については、日常的利用を含めて観光利用の視点においては、陸側、海岸部あとは空からも考えられる。具体的には陸側だと浦添グスクとか、海岸部だと里浜活動、干潟遊び、浜遊び、フェリー通路など。空路の方も抑えておいた方がよいと思う。遠距離すぎてとらえられないのであればしょうがないと思うが、視点場は抑えておいた方がよいと思う。

もう一点、予測手法の圍繞景観についてだが、なかなか圍繞景観について視点場も含めて特定しにくいところではあるが、造成地の上に建物もできそうなので、わかりやすい手法としてCGとかAI、VRなど（住民の説明にもわかりやすい）実景とCGを取り入れ

た手法を取り入れたらどうか。コストはかかるかもしれないが、それをするだけの場所だとも思っている。

●事務局

予測手法については、前回審査会の際にも上物整備をとり入れた予測手法についてご指摘いただいていたが、事業者は上物整備の予定は未定のため、意見とするのは難しいが（事業終了後に）都市計画法で用途地域が指定されるため、高さ制限を踏まえた予測をすることを検討するよう伝えたいと考えている。委員ご指摘の点に関しても検討して何らかの形で伝えたいと思う。

○委員

上物がない段階においても、造成高とか埋立高というのも考慮して予測する必要があると思う。必ずしも上物を含めたということではない。

○委員

前回の審査会で（事業者は）断層の認識がなかったということだったが、調べられてどうだったのか教えてほしい。

●事務局

断層の位置を確認することについては留意事項で事業者に伝えようと考えているため、現段階では位置は確認できていない。

○委員

留意事項で伝えるというのは、今後ということなのか。

●事務局

準備書の段階で明らかにしてもらえばよいかと考えている。

○委員

要望ですが、サンゴの調査地点等の位置が妥当かどうか検討しようとしても過去の調査結果に今回の埋立位置が記載されていないため確認ができない。準備書ではできれば同じ倍率で、平成25年でも令和3年の結果でもよいが、過去のサンゴ被度等の調査結果に今回の埋立位置を重ね合わせて表記してもらえれば、調査地点が良い地点を選んでいるかなど、分かりやすいと思う。

潮流についても、沿岸方向の流れが卓越していて、両岸に行くと思うが、もし工事区域の影響がでるとすると、両岸にいく可能性がある。それは既に答申案に記載されているが、両岸にはサンゴ被度の高い場所があるため、潮流も考慮して影響が及ぶと予測されるのであれば、そこにも調査地点を追加してほしい。

●事務局

調査地点だけみると、現況と重ね合わせないのでわかりづらい点があるかと思うので、そこら辺もわかりやすく示すように伝えていきたい。

○委員

事業計画について、「この事業の必要性について検討し、埋立面積を最小限に抑える必要がある」としているが、ここは重要であると思う。準備書の段階では我々は事業の必要性に対してどのように審査していくのか、このあたりの道筋を事務局の方で整理しておいてほしい。

今回の環境影響評価だけでは全体的な影響は審査できない。このあたりの部分についてはもう少し強く答申案に記載してほしい。

あと埋立（土砂）条例との関連性についてはどうだったのか事務局に確認しておきたい。潮間帯生物についての影響については、この地域にはおそらくヤマトウシオグモやアワセイソタナグモなど絶滅危惧Ⅰ類の生物が潮間帯にいると考えられるため、種名を挙げて、独特の調査が必要になって来ると思うので、そのあたりは種名を挙げて答申に記載してほしい。

●事務局

最初に潮間帯生物について、前回審査会においても種名が挙げられていた種については、何かの調査で確認されているということなのか。

○委員

例えば、アワセイソタナグモなどの種については、沖縄本島周辺の潮間帯においていくつかの地域で確認されている。ここは非常に良い海岸で、ここにはおそらく生息していると考えているので、ぜひしっかりとした調査を行ってほしい。ヤマトウシオグモは特に一つ一つ石をひっくり返さないと発見できないので、そういった調査を行うよう（答申案に）いれてほしい。

●事務局

委員ご指摘も踏まえて、答申案の修正を検討する。

土砂条例については、今のところ県外からの土砂の搬入は予定されていないが、外来種モニタリング計画を策定することについて記載している。

○委員

この地域は米軍基地との関連でハヤトゲフシアリというアリが確認されていて、県と環境省で大がかりな駆除が行われているので、答申案に種名を挙げて記載したほうが良いと思う。

●事務局

準備書の段階でどのように審査するかについては、整理して後日示していきたい。

○委員

答申案とは関係ないが、工事計画では工事期間は 7 年と記載されているが、上物はその後に作られるということか。

●事務局

そうなると思う。

○委員

埋立区域の北側のところはいつ頃埋立てする予定なのか。

●事務局

物流空間の場所については、計画自体が現段階で未定と聞いている。

○委員

答申案に埋立地からの雨水排水の位置も考慮するようにとあるが、それはいつころに決まるのか。

●事務局

現段階では不明で、上物整備があるかないかでも決まってくると思うが、準備書の段階で明らかになると考えている。

○委員

浚渫工事があると思うが、かなり掘り込むと思うがその部分は埋立地内で活用するのか。

●事務局

事業者は埋立てで利用するとしている。